

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬、松本信用金庫白馬支店と取引のある経営者の皆さんと「万葉文化館と明日香・開創1200年高野山参拝」の旅に参加

する。度々関西方面には出掛けるが宿泊はいつも、大阪・京都だが今回初めての奈良の橿原に宿泊した。情報豊かな参加者との会話も楽しみの一つだ。年齢にこだわらず、老いに抗わず、誠実に向き合う。むしろ老いの兆候や変化を面白がる話題は貴重だ。「老いとは寄り添え。病とは連れ添え」。つまり、年老いた。病気がなくなった。とひと騒ぎせず、健康に振り回されない人生を歩みたいと思われれるのも、この旅行の意義でもある。

梅雨の時季、西日本では局地的豪雨や台風の情報。以前は風情ある「夕立」だったものが、何やら入の油断を突いて急襲する悪意を感じさせる昨今でもある。訪れた明日香村。名所旧跡の観光地を感じる。訪れた明日香村。名所旧跡の観光地を感じる。

封土が失われ巨岩が露出した日本最大級の横穴式石室を持ち、広さは8坪で内部も無料で見学できる貴重な古墳。天上の巨岩は総重量2300ト、高い巨岩運搬技術が既に飛鳥時代に存在した驚きの

シアムで、万葉歌をモチーフに新たに描かれた日本画154点を順次展示する日本画展示室は魅せられた。館内万葉劇場で上演している演目は、今回時間の余裕が無く鑑賞できなかったが、人形と映像による歌劇・アニメーションが30分間隔で上演されており、次回には是非鑑賞したいと思わずにいられなかった。

令和の大典でもある梅花の歌。九州大宰府の長官であった大友旅人が自分の館に部下31人を集め、梅見の宴会で読まれた漢詩の世界。大伴旅人が「わが園の梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも」と詠まれた、当時の文化の高さが羨ましくなる。

初めの寺院「飛鳥寺」や高松塚壁画館を見学して、橿原神宮に近い宿で参加者との親睦を高めた旅でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

旅から享受する知恵が生きる力になる

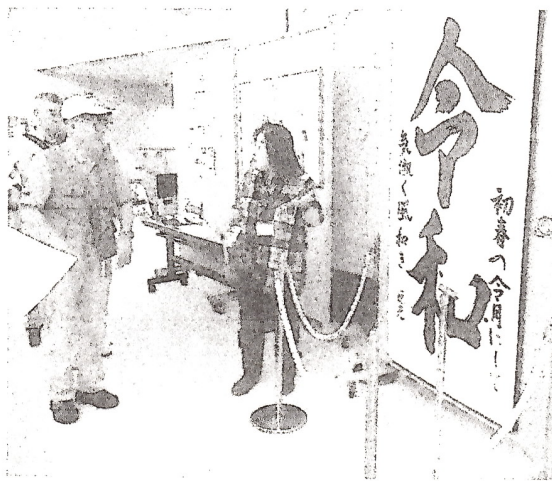
じさせない程の道路の狭さや、寂しさを感じた。現場を観る事ができ

平成13年に開館した奈良県立万葉文化館。改元で注目されている施設でもある。万葉のふるさと・飛鳥に「万葉集」をテーマにした新しいタイプのミニ

アニメーションが30分間隔で上演されており、次回には是非鑑賞したいと思わずにいられなかった。

初めの寺院「飛鳥寺」や高松塚壁画館を見学して、橿原神宮に近い宿で参加者との親睦を高めた旅でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



万葉文化館は「令和」改元で注目されている施設